



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL) 2023/05/23
いまさら聞けないウクライナ戦争シリーズ #1
ーウクライナ国民が徹底抗戦を選ぶ理由ー

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。これから、『いまさら聞けないウクライナ戦争理解のための基礎』を、シリーズでお伝えしていきたいと思えます。
というのは、ウクライナ戦争はまだまだ続くんですね。長期化しますよ。

1950年6月25日に朝鮮戦争が始まりました。38度線から北が北朝鮮、南が韓国ですね。金日成/北朝鮮がバサッと入って来たのですが、3年間戦って、そして38度線、元の所で休戦です。なぜ3年で休戦になったのか。
その3年間に、互いに国力を・弾薬を・命を使い果たすようにして消耗したんです。今の近代戦争のことを考えると、長期戦になって少なくとも3年以上経つのではない限り、互いが矛を取めることはないんですね。

ウクライナ戦争は2022年2月24日に始まって、既に1年以上経っていますが、まだまだ続きます。10年続くかもしれない。
そんな状況の中で、国際情勢が大きく変わっていきます。
そこで今日は、第1回目の基礎として、『なぜウクライナ/ウクライナの人たちは、逃げ出さずに徹底抗戦を選んだのか』についてお話しします。

この戦争が始まって間もない時、大阪の元市長が「抵抗するから人命が失われる。抵抗じゃなく降伏することが人命を尊重することになる。さっさと白旗上げたらいいじゃないか」みたいに言ったんですね。
そういうことを言う識者が他にもいました。親ロシア派の知識人や政治家の中にも。でも、ウクライナの人たちは徹底抗戦を選んだんです。

戦争が始まってしばらくして、800万人が難民となって外国に逃れました。
800万人は人口の20%ですよ。しかし、その内の約100万人が戻って来てます。
戦うために。いったいこの闘魂・抗う意識はどこから来ているのでしょうか。
これは歴史に由来するのです。

ウクライナは穀倉地帯です。ウクライナ国旗はツートンカラーで、上半分がブルースカイのブルー、下半分が黄金色の黄色。これは、小麦がたわわに実っている様子ですよ。ヨーロッパの穀倉地帯と言われているのです。
なのでロシア帝国は、ウクライナを長らく自分の支配下に置くことによって、食糧の大きな倉庫を握ったということなんですね。

ウクライナはロシア帝国時代に支配されてしまいましたが、ロシア革命と同時に、つかの間の独立を経験しました。

しかし、またソビエトに併合されてしまったんです。やがてスターリンの時代になって行くのですが、一度独立を経験したウクライナの人たちは、ソ連共産党/スターリンがやって来た時、当然抵抗運動をしました。

ソ連の支配に対して独立をもって抵抗するという、この抵抗勢力をメチャクチャにやっつけるために、スターリンは徹底的なことをやったんです。一つは国全体を飢餓に追い込むこと。これをホドロモールと言います。ホドロは飢饉・飢餓。モールは死。飢饉によって国民の大半を餓死させ、抵抗する心を折ってしまう。

ウクライナから穀物や家畜を無理やり収奪し、とてもじゃないけど達成できないノルマを課し、自分たちが食べる最低限の穀物までも全部奪い取って行ったんですね。このために、少なくとも330万人以上のウクライナ人が餓死したと言われています。これによって、ウクライナの人口は激減しました。

さて、スターリンは、この方法を取ることで3つの利益があると考えました。

①抵抗運動の鎮圧。

②後進国だったソビエトが一気に先進国の仲間入りを果たすためには、農業国から重工業国家への脱皮を図らなければならない。

そのための費用を稼ぐには外貨が必要でした。それで、外貨獲得の手段として収奪した穀物を輸出した。ウクライナから収奪した物を外国に売ったんです。

そうして、第一次5カ年計画で見事にそれを達成しました。

③これにはもう一つメリットがありました。

第一次5カ年計画は、世界的に大恐慌が起こっている時だったんです。

世界恐慌は1929年10月24日、“暗黒の木曜日”、アメリカの株式がドーンと落ちました。それが引き金になって、世界中で連鎖的な倒産と大不況が起こったんです。この大不況は第二次世界大戦が終わるまで続き、世界全体のGDPの15%が吹き飛んだんですよ。

2008年にリーマン・ショックがありましたね。皆さんも、ずいぶんダメージを受けた方が多いのではないのでしょうか。このリーマン・ショックで世界が失った富はGDPの1%です。

世界大恐慌は、リーマン・ショックの15倍のダメージを世界に与えました。

すべての国が貧乏になり立ち行かなくなっていて、それがきっかけで第二次世界大戦が始まるわけです。

そんな中、一人気を吐いていたのがソ連です。ソ連はウクライナ人を餓死に追い込み、彼らから得た財産を売りさばいて金にし、そうして5カ年計画を達成していきましました。しかし世界は、まさかそんな酷いことが国内で行われているとは知らなかったんですね。

スターリンはこう言ったんですよ。「見よ。資本主義経済より、共産主義の計画経済の方がはるかに優れているぞ。需要と供給ではなく、エリートたちが計画に基いて経済を立てていくなら、景気の循環によって不況を経験することはないのだ。」

世界中に“共産主義こそが理想の考え方だ”という幻想を振りまくことができたんです。ウクライナの反抗の意思を砕き、外貨獲得のための原資とし、世界中に共産主義のウソをばら撒くために、ウクライナは犠牲となりました。

これが起こったのは昭和の初期です。

この時代のウクライナの方々に、生き残っている人たちがまだいるでしょう。

もう民族的トラウマですよ。だって、人が人を食べたんですから。

恐ろしいことがソ連によって行われたんですね。

ソ連が崩壊して、独立して、今度プーチンがもう一度取り戻そうと入って来た時、必死に抵抗するのは当然のことです。

私は、今ウクライナの人たちが必死に抵抗することによって、日本人に教えているようにも思うんですよ。

日本のすぐ隣にも、拡大主義を全く隠そうとしない、非常に独裁的な国があります。

習近平率いる中華人民共和国ですよ。中国は台湾併合を諦めていません。

軍事力を使うとハッキリ公言しています。その時、日本は必ず巻き込まれます。

台湾を守る最大の力である米軍基地、在日米軍基地から米軍が発進するからですね。

私たちは明日は我が身と考えて、このウクライナ戦争を分析する必要があると思います。ということで、しばらくシリーズでご紹介します。

チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。それまで皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！